

平成 25 年度 法科大学院（法務研究科）既修者認定試験

刑 法 問 題 紙

B日程

平成 25 年 2 月 24 日

16 : 00 ~ 17 : 30 (90 分)

(120 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 刑法の問題紙は 1 ページのみである。
3. 解答用紙は、問題 1 と問題 2 の 2 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 2 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題1 (60点)

病院の待合室にいた甲は、トイレから戻ってきたところ、それまで読んでいた週刊誌を、待合室にいたVが読んでいたので、「その週刊誌は、俺が読んでいた途中だ。」と言ったところ、Vが反論し口論となった。甲は、Vに対して、「お前、ここから出て行け。」と言ったところ、腹を立てたVは、甲に対し、「やるか、こら。かかってこい。」と言いながら、付近に置かれていた長机を持ち上げ、甲に向けて押し倒した。机は甲の左膝に当たったが、甲は、両手でこの机を受け止めた後、立腹して、長机を両手に持って、Vに向かって押し返した(第1暴行)ところ、机の脚部がVの左手に当たり、Vはそのまま机に押し倒されて転倒し、壁に上半身をもたれ、下半身付近に机が覆い被さる状態になった。さらに、甲は、転倒したVに馬乗りになって、Vの左ほほ付近を手拳で数回殴打した(第2暴行)。その結果、Vは加療約3週間を要する左中指腱断裂及び左中指挫創の傷害を負ったが、これは甲の第1暴行によるものであった。甲の罪責を論ぜよ。

問題2 (60点)

甲は、通行人A女のハンドバッグを、隙を見て奪い取ったが、「どろぼう」というA女の叫び声を聞きつけて追い掛けてきたVに捕まりそうになったので、逃走するためVに殴る蹴るの暴行を加えたが、劣勢に陥った。ちょうどそこに甲の友人乙が通りかかったので、甲は、「手を貸してくれ。」と乙に応援を求めたところ、乙は、すべての事情を察して、Vに対して殴る蹴るの暴行を加え、Vがうずくまって苦しんでいる隙に逃走した。

- (1) 甲に成立する犯罪について、事実を構成要件にあてはめ簡潔に述べよ。
- (2) 乙の罪責について、他説を批判し自説を展開せよ。